



WEBにも掲載しています



はなぐるま

第160号 2022.08.20 発行

編集 はなぐるま編集委員会
〒141-0031 品川区西五反田 3-6-3 TEL:3491-2000
sakilc@city.shinagawa.tokyo.jp FAX:3491-2002
発行元 大崎第一地域センター

品川区

ゆかりの偉人

【後編】

行元寺(西五反田)の住職で書家の印南慶俊(号豊道溪峻)さん。前編では、近代書道の礎を築いた祖父・豊道春海さんの功績や作品をご紹介しました。後編では、慶俊さん自身のことや書の楽しさについて話を伺います。

第四日野小学校で学んだ

子ども時代

慶俊さんと父の溪龍さんは第四日野小学校に通いました。慶俊さんは、「私が入学すると祖父は喜び、『先憂後楽』と揮毫した大きな作品を贈呈しました」と話します。作品は現在、校長室にあるそうです。ほかに、慶俊さんが在籍していた創立35周年の記念誌では、春海さんの作品『敬愛』が巻頭を飾りました。「当時の学校は木造で、周辺は自然がいっぱいでした」と慶俊さん。「学校近くのパン屋で買ったコッペパンに、揚げ物屋のコロッケを挟んで食べたのがいい思い出です」と語ります。

固定観念をなくし

自由に表現する

「書道は子どもの頃に書初めをする程度だった」と言う慶俊さんは、親と同じ書道と僧侶という仕事から距離を取りたいと思っていたため、大



写真左から妻の陽子さん、慶俊さん、豊道春海顕彰会・会員の吉野和典さん

学は英文学科に進み、卒業後はシステムプログラマーとして活躍しました。ですが、溪龍さんが体調を崩したり、自身のハードワークが続いたりしたことから人生を見つめ直す機会を得て、自分には書道があると気付いたそうです。書と向き合う決意をした慶俊さんは、溪龍さんと殿村藍田さんに師事し書道の勉強に真剣に取り組みました。

慶俊さんは、「書道に限らず芸術は無駄な部分が大切」と話します。例えば、墨汁を使えば墨を磨くという無駄はなくなりますが、本来は省けない部分なのだそうです。この「墨を磨くのは気を練ること」と言われており、磨りながら自分の思いを練ることで心を静め、気持ちを集中させてから筆を持つこと

が大事だからです。

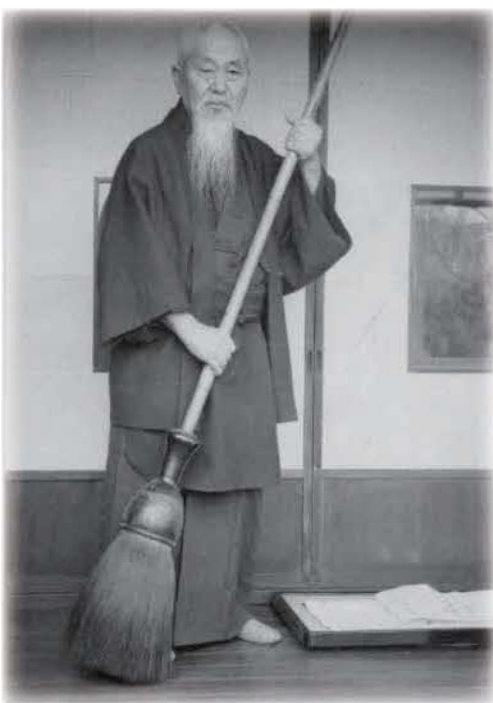
書の楽しさは、型にはまらず自由に創作すること。穂先を使って細い線にしたり、どぼっと勢いのある線にしたりするなど、どんなふうに書こうかと考える過程がとても楽しいそうです。教育的観点では、きちんとした字を書く必要がありますが、「太くてしっかりした字が正しい」という固定観念に、もう少し伸びしろを付ければ、字に対してはもちろん物事の考え方にも役立つ」と慶俊さんは考えています。また、書を自由に創作できるようになるには時間がかかりますが、「自分を表現するのは技術ではないからすぐできる」と慶俊さん。子どもたちが気楽に取り組むためには、「自由に表現していいと教えてあげることが大切」と呼び掛けます。

春海さんの功績を

次世代に残したい

慶俊さんは平成26年、「豊道春海顕彰会」を発会しました。春海さんの功績を文字に残し、若い世代に伝えたいという想いからです。慶俊さんは、「春海の生き様を通して、みんなに希望を持っていたら」と語ります。

(編集委員 若松)



大筆を持つ春海さん

大崎第一地域センターでは、「はなぐるま」のほかにも SNS やサイトで、地域の様々な情報を発信しています。ぜひご覧ください！



Twitter
@ WWjec5ui2p9LyDC



Instagram
@ osakidai1



大崎×五反田 Link
OSAKI x GOTANDA LINK

地域共創メディア
『大崎×五反田 LINK』

